

復刊

# ハズミ



所沢図書館だより  
復刊16号(通巻94号)  
題字 高橋 玄洋 氏

## 目次

- P.1 ボブ・ディランのことば
- P.2-3 南ロシア(講演録)
- P.4 将棋のあれこれ
- P.5 所沢の三棋士
- P.6 ところざわまつり  
について学ぼう!  
編集後記

## ボブ・ディランのことば 須永紀子

昨年十月にノーベル文学賞を受賞したボブ・ディランが六月五日に講演をした。受賞者の義務である講演がいつ行われるか注目されていたけれど、これで世界中のひとがほっとしたことだろう。

まずディランは「最初はなぜ、私の歌が文学に関係あるのかとまどったが、それについてじっくりと考え、文学と私の歌がどうつながっているのか理解したいと思った」と率直な気持ちを述べた。わたしたちは何よりもそのことを聴きたかったのだと思う。ミュージシャンとしてではなく詩人としての功績を評価されたのは心外だったかもしれない。長い沈黙が何を意味するのか、ディラン自身が語る日を心待ちにしていた。

また、「私はいろいろなことを自分の曲に込めてきた。だが何を意味するか気に病むつもりはない」と言っている。ディランは六〇年代からニューヨークのカフェや路上で歌ってきた。その間にアメリカ

カではキューバ危機や公民権運動、ベトナム戦争などがあり、揺れ動く自身の気持ちを詞にすることで、「時代の精神」を表現するアーティストになつていった。

「プロテスト・シンガー」と呼ばれることもあるが、抗議するのではなく自身の内奥を探り、語りかけるように歌う。そのため、わかりにくい歌詞も多い。「ライク・ア・ローリング・ストーン」や「はげしい雨が降る」などに現代詩的な表現が見られる。

代表曲「風に吹かれて」では、「どれだけ道を歩いたら／一人前の男とみとめられるのか」と問いをいくつも並べ、「こたえは風に舞っている」と結んでいる。ありきたりな観念論に持っていけない歌詞が人びとの共感を呼んだのだと思う。

フォークからロックへと転向したとき、ファンの大ブーイングを浴びたが、ディランは立ち止まらなかった。新しい音楽をめざし

て苦闘する姿は求道者のようでもある。

内外のミュージシャンはもちろん、ディランに影響を受けた詩人も少なくない。「時代の精神」を呼吸するように書かれた詩は、現代詩の大きな潮流の一つといってもいいと思う。

半世紀に渡って世界の音楽シーンを牽引してきた七六歳のボブ・ディラン。偉大な詩人と同じ時代を生きている幸福を思う。

(おわり)

### 須永 紀子(すなが のりこ)

一九五六年東京生まれ。二〇一〇年『空の庭、時の径』(書肆山田)で第二六回詩歌文学館賞を受賞。現代詩人会会員。詩集に『森の明るみ』(二〇一四年・思潮社)などがある。八二年より個人誌「雨期」を発行し、現在六八号。



# 南ロシア A・チェーホフとM・ショーロホフ生誕の地を行く

講師 鴨川 和子氏 平成29年3月4日(土) 会場：所沢図書館本館

## 【南ロシアについて】

みなさんこんにちは。私はソビエト崩壊後二十数年、南ロシアの大学、研究機関、博物館などの専門家と共同で仕事をし、旅をしてまいりました。

南ロシアでは、古生物学的なものから考古学的なものまで、多くの品々が出土します。例えば、六〇万年前のトロゴンテリゾウの化石や、八〇〇万年前の長鼻類デインテリウムの骨格は、世界的にも貴重なものとされています。

また、紀元前七世紀末から紀元後四世紀まで栄えた、騎馬遊牧民スキタイ、サルマタイは、鞍に動物のレリーフが施された黄金の短剣のような、黄金芸術と呼ばれる至宝を残しています。

これらのすばらしい出土品は、アゾフやモスクワの博物館、エルミタージュなどに展示されており、私自身も展示会等を通じて、これらを日本で紹介してきました。

## 【アントン・チェーホフ】

アントン・チェーホフは、ロシ

アと諸外国の文化に触れられた貿易港タガンログで生まれ、十三歳の時にはもう、演劇の虜になっていました。

当時のタガンログでは、国内外の名作の他、子供には見せられないような出し物も上演されており、学校は生徒の劇場への出入りを禁じていました。

しかし、チェーホフと彼の友人達は、監視の目を潜り抜けて観劇したと言われ、彼の才能はこの頃に培われたものと思われま

す。彼が十六歳の時、父の営む雑貨店が破産します。一家はモスクワへ夜逃げしますが、アントンだけはタガンログに残り勉学を続けました。

このころから、彼は詩や戯曲を書いていたと言われ、モスクワ大学医学部に入ってから、家計を支えるため、雑誌、新聞に七年間で四〇〇点以上の作品を執筆しています。

チェーホフの生きた時代は、世紀末の灰色の時代と言われ、ロシアの歴史にも希にみる空虚で希望



A・チェーホフの生家

の持てない時代だったと言われています。

特に、一八八〇年代から九〇年代は、帝政ロシア当局による革命運動弾圧と反動の勝利の時代となり、革命の信念と情熱を持って解放を夢見た人々は希望を失い、人々は現実に安易に妥協し、社会悪に対しても傍観的な態度をとっていきます。

さて、このような時代について、チェーホフはどのように作品に反映したのでしょうか。

十九世紀末の貧しい、灰色の、困難な社会と言われた帝政ロシア末期、沈滞しきつた希望のない時代の彼の代表作には、初期の短編小説では『小役人の死』、『カメレオン』、『接吻』などがあり、その後の『箱に入った男』、『恋について』には、人間及び社会の不合理に対する怒りがあります。そして『桜の園』、『かもめ』、『ヴァーニャ伯父さん』、『三人

姉妹』などは世界戯曲史にあって不朽の名作とされ、中でも『桜の園』は、屈指の名作と言われています。

この作品は、十九世紀末のロシアのとある広大な莊園を舞台としており、作中の没落していく一族の運命は、ロシア革命で打倒されたロマノフ王朝のひな形の様だと評論家は語ります。

帝政ロシア末期の作家チェーホフは、ロマノフ王朝の行く末が見えていたのでしょうか。

『桜の園』は、病魔に蝕まれたチェーホフが、死の一年前となる一九〇三年、妻のオリガ・クニツペルに捧げて書き上げたものです。時にチェーホフ四十三歳、『桜の園』はその遺作となりました。

## 【ミハイル・ショーロホフ】

南ロシアが生んだ、もう一人の世界的な文学者が、一九六五年にノーベル文学賞を受賞したミハイル・ショーロホフです。

文化の香り高い貿易港、タガンログで少年時代を過ごしたチェーホフに対して、ショーロホフは、ドン地方のコサツクの寒村、ヴォーシエンスカヤ村で生まれ、人生の

ほとんどをそこで過ごしております。

シヨロホフの『静かなドン』は、膨大な資料を駆使して、第一次大戦、十月社会主義革命、農業集団化コルホーズ、大祖国戦争(第二次世界大戦)など、内戦時のドン地方を中心に、コサック内部の激しく厳しい階級闘争の姿を歴史のスケールで描きあげています。

『静かなドン』では、社会主義のソビエト時代という当時の状況にも関わらず、政治的に中立な姿勢が貫かれています。

このような作品は、どんなに苦しく残酷でも、赤裸々な真実を具体的に表現することが、自分の創作上の普遍的な掟であるとするシヨロホフだけに書くことができたのだと思います。

### 【阿部よしゑさんとシヨロホフ】

シヨロホフの作品の普及に、全力を注いだ日本人女性がいまいた。阿部よしゑさんです。彼女は、若くして夫が亡くなり、五人の子ども達は夫の家に引き取られますが、彼女自身は除籍され、家を追い出されてしまいます。その後、彼女は東京で苦勞して速記を習い、

モスクワの日本大使館で速記者として働くことになりました。

それから、彼女は大変な頑張りを見せ、ポリシヨイ劇場の最高峰のハーブ奏者K・エルデリ先生に教授し、その後は八年間パリ高等音楽院ハーブ科で学び、同音楽院ハーブコンクールで優勝、正規のハーブ専攻の音楽院を卒業した、初めての日本人となります。

さらには、東京芸術大学に初のハーブ科を創設したり、NHK交響楽団で活躍したりもします。

皆さんご存じの映画「ビルマの豎琴」(一九五六年)で、ハーブを弾いているのも阿部よしゑさんなのです。

### 【阿部さんとシヨロホフ】

阿部よしゑさんが、モスクワで速記者として働いていた当時、彼女は改造社からシヨロホフへのインタビューを依頼されます。

シヨロホフは、インタビュウ嫌いで有名でしたが、一九三五年九月に、彼女をヴォーシエンスカヤ村の自宅に招きます。彼の家族に温かく迎えられる阿部さんは、インタビュウの中で、彼と『静かなドン』について語っています。

阿部さんが「あなたの戦場描写が真に迫ることは、定評がありますが、ご自身、戦争に出たことがありませんか。または兵隊にでもいらつしやいましたか」と尋ねますと、シヨロホフは「なんの、ちりほどの経験もありませんよ。兵隊にだつて一度も行ったこともないし、撃つたものといえは、草原(ステップ)に行つて、野鴨を撃つたくらいです。」と答えます。

また、「どうしてシヨロホフは故郷の村から離れないのだろうか」と、みんながそういっていますよ」と尋ねられると、シヨロホフは「画家が必要なものを写生するために、どんなに遠いところでも出かけていくでしょう。それと同じで、私の小説を書く上で必要な材料は、みんなここに揃っているのですから、どこにも行く必要が無いです。いつでも私は、主人公たちを見ていられますから。」と話しています。

### 【シヨロホフの来日】

戦後の一九五〇年代、日本放送協会(NHK)が、『静かなドン』の放送を頑なに拒否した時代がありました。その時代、阿部さんは

何度も手紙を書き続け、ついに一九五六年七月二日、東京で『静かなドン』がラジオドラマとして放送されます。

一九六六年、阿部さんの影での努力もあり、日本文芸協会の招待でシヨロホフ一家が日本にやってきました。

当時、私も阿部さんと一緒に、シヨロホフを出迎えに横浜港まで出かけて行きました。

ヴォーシエンスカヤ村の、国立シヨロホフ博物館には、阿部さんの写真と、その下にはシヨロホフが阿部さんに贈った思い出の花、ステップの“不滅の花”が飾られています。

さらにシヨロホフ夫妻は、阿部さんにプラトーク(シヨール)を贈り、阿部さんは、私が死ぬときには、このシヨールを巻いて埋葬してくださいと言っていたそうです。

### 〈講師紹介〉

鴨川 和子(かもがわ かずこ)  
ロシアの少数民族の歴史、文化の研究に携わり、ノボボスチ通信社東京支局記者や、ユーラシア学術・文化研究所所長を歴任。現在はフリージャーナリスト。

# 将棋のあれこれ



史上初二十一世紀生まれの将棋棋士・藤井聡太さん(15)が、歴代単独一位となる公式戦二十九連勝を達成しました！スーパー中学生に刺激を受けた皆さん。ちよっぴり、将棋の世界を覗いてみませんか？

## ◆将棋のルーツ◆

将棋のルーツは、いまだ解明されていない謎が多く、様々な説(古代インドの四人制さいころ将棋チャトランガ、駒の配置や動きが同じタイ将棋のマークルックなど)があります。いっどこから日本へ伝わったかについても、奈良時代の遣唐使が中国から持ち帰った、インドく東南アジアく中国を経たルートなど諸説ありますが、古文書や出土した駒の年代から推測すると、十世紀の後半から十一世紀初めと判断されるようです。平安く鎌倉く室町時代の将棋は、現在の将棋の型(盤面9×9・駒数40枚)とは違った、枡目も駒数も多い大将棋・中将棋・大々将棋等で、現在の型が作られたのは十六世紀以降といえそうです。

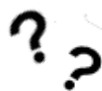
江戸時代になると、幕府に将棋所が設けられ、毎年十一月十七日に対局を披露する御城将棋が開か

れました。日本将棋連盟では、昭和五十年より、この日を「将棋の日」としています。

## ◆将棋の棋士とは◆

棋士の養成機関「日本将棋連盟付属・新進棋士奨励会(奨励会)」を卒業後、四段に昇段し「プロ棋士」になった者をいいます。奨励会には六級で入会し、昇級、昇段規定の階段を一段ずつ登って行きます。三段に到達するのは三十〜四十名程で、半年かけて一人十八局の三段リーグに挑戦していき、内上位二名だけが四段に昇段し、棋士になれる狭き門です。四段になれない奨励会員は、二十六歳の誕生日で自動的に退会となります。現在、プロ棋士の数は現役百六十一名、女流プロ棋士は現役五十二名。四段になると、全ての将戦に出場ができ、固定給と対局料が入ります。タイトルを獲得すれば賞金も出ます。

## く将棋クイズく



### クイズ《巻》

藤井聡太四段が、小学校四年の時に書いた文集で、将棋以外に関心を持ったこととは？

- ① サッカー
- ② AKB48
- ③ 南海トラフ

### クイズ《武》

作家菊池寛は、将棋愛好家として知られています。将棋に熱中するあまり、対局中にしてしまう奇妙な癖とは？

- ① 持ち駒を噛む
- ② 湯呑を駒台に置く
- ③ 体を前傾した時に自分の駒を落とす

### クイズ《参》

夏目漱石の明治時代後期の日記に「将棋を指す。豊隆に一度負ける。二度目には〇〇の助言で勝つ。」という一節があります。助言した人は誰？

- ① 芥川龍之介
- ② 内田百閒
- ③ 高浜虚子



クイズの答えは、6ページにあります！

### (参考文献)

『将棋の世界』大内延介／著 角川書店  
『将棋の歴史』増川宏一／著 平凡社  
『プロ棋士という仕事』青野照市／著 創元社  
「公益社団法人 日本将棋連盟棋士データベース」

クイズ出題：『将棋世界』二〇一六年十二月 号付録

将棋に興味を持たれた皆さん。

図書館にはこんな本があります！

- 『人工知能はどのようにして「名人」を超えたのか？』 山本一成／著 ダイアモンド社
- 『おもしろいほどよくわかる羽生善治の将棋入門』 羽生善治／監修 主婦の友社
- 『不屈の棋士』 大川慎太郎／著 講談社
- 『勝負という生き方』 高橋呉郎／著 日本将棋連盟

# 所沢の二棋士



所沢出身の棋士には、江戸から明治時代にかけて活躍した二人の「とうきち」と、現在も将棋界を賑わせている羽生善治氏がいます。

## 福泉藤吉

明和三(一七六六)年、所沢村植宿(現在の日吉町)に生まれました。家業である紺屋の仕事を続けながら棋士として活躍し、当時の民間棋士の中では最も人気のある一人であつたといわれています。天保六(一八三五年)、藤吉は将棋番付で西の大関に格付けされ、民間棋士としては破格の七段を許されま

す。天保八(一八三七)年七十二歳で死去。御幸町の川端霊園に葬られました。お墓は、台石を将棋盤、香炉を駒に模った大変珍しいものです。

## 羽生善治

昭和四十五(一九七〇)年生まれで、四歳の頃に八王子に転居するまで若松町に住んでいました。両親共に将棋とは一切無縁で、駒の動かし方さえ知らなかったそうです。そんな羽生少年が、初めて

将棋を指したのは小学校一年生の時、同級生とその兄の三人で遊んでいた時で、駒の動かし方も知らなかった羽生少年の惨敗だったようです。以降、この同級生と暇を見

つけては将棋を指すようになったようです。

小学校二年生の頃には将棋にさらけにのめり込み、朝起きると、新聞の将棋欄を読み、食事時や布団の中でも将棋の本を手放さないほどだったそうです。この頃、デパート主催の小学生将棋大会には、お母さんが見つけやすいように目立つ赤い広島カープの帽子を被らされた羽生少年が必ず参加しており、連戦連勝で「赤ヘル少年」の名を轟かせていたそうです。

昭和五十七(一九八二年)、小学六年生の時、第七回小学生名人戦に優勝し、昭和六十(一九八五年)には四段に昇進、史上三人目の中学生プロ棋士となりました。その後、平成元(一九八九年)、当時の最年少記録で竜王位の獲得から始まり、平成八(一九九六年)、ついに前人未到の七冠王となりました。また、現在は、永世名人・永世王位・名誉王座・永世棋王・永世王将・永世棋聖の六つの永世称号を有する、まさに将棋界のレジェンドといふべき人物です。

(参考：所沢図書館ホームページ「所沢の足跡」)

二人の「とうきち」が現代に生きていたら、どんな対局を見せてくれるのでしょうか。想像するだけでわくわくしますね。



(参考文献)

『棋士』所沢のとうきち』

霜田照夫著(『所沢市史研究第12号』)

所沢市史編集委員／編

『所沢市史 上』所沢市史編集委員会／編

『所沢市史』所沢市史編集委員会／編

『ところざわ歴史物語』

所沢市史編集委員会／編

『羽生善治神様が愛した青年』

田中寅彦／著 ベストセラーズ

『天才羽生善治神話』小室明／著

三一書房

『将棋から学んできたこと』

羽生善治／著 朝日新聞出版

『将棋年鑑 平成28年版』日本将棋連盟

『朝日聞蔵DBビジュアル』人物事典

(データベース)

## 大矢東吉

『所沢の東吉でも王手には逃げろ』という将棋格言で知られる大矢東吉は、文政九(一八二六)年所沢新田(現在の所沢新町)に生まれました。幼い頃から将棋に長じ、十代

山車の曳きまわしと伝統のお囃子が魅力の「ところざわまつり」。たくさんの人で賑わうまつりは、夏から秋にかけての所沢の風物詩ですが、どんな山車があるのか、お囃子は誰が作ったのかご存知でしょうか？ところざわまつりを二倍楽しめる、歴史や豆知識をご紹介します。

山車



山車の曳きまわしは明治初期頃から始まったとされ、当時は山車を牛に引かせることもあったようです。各町内の山車が出揃ったのは昭和二十五（一九五〇）年市制施行のとき。山車の多くは近隣の人たちが製作したのですが、中には御幸町の山車のように全国的に名をはせた名匠の作もあります。現在、十二台（元町本町、元町東、寿町、有楽町、御幸町、宮本町、金山町、日吉町・東町、旭町、新井町、西所沢、星の宮）ある山車のうち、元町本町、有楽町、御幸町の三台が市の指定文化財となっています。

まつりばやし 祭囃子



所沢の祭囃子の主流は重松流じゅうしょうりゅうと呼ばれる、テンポの良さと小太鼓二つの掛け合いが特徴の流派です。重松流は、山車の上で雄壮に演じられるケンカ囃子であるため、ツツカケ囃子ともいわれています。幕末から明治初期にかけて所沢を中心に近隣に広まった流派で、所沢に住んでいた古谷重松が広めました。現在、この祭囃子も市の無形民俗文化財に指定されています。

（参考文献）

『所沢市史 民俗』

所沢市史編さん委員会／所沢市『ところざわ歴史物語』

所沢市教育委員会

『金山百年史』金山町町内会

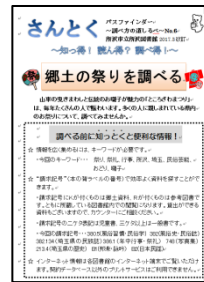
『祭りと芸能』祭りと芸能編集委員会

所沢市立中央公民館

『所沢中心市街地楽知見マップ』

所沢商工会議所

ところざわまつりの歴史をさらに詳しく調べたい方は、図書館のパスファインダー（調べ方案内）もご覧になってみてください！



今年のところざわまつりは、十月八日（日）に開催します。山車の曳き回しやお囃子はもちろん、近年はサンバなどの多彩な催し物で盛り上がりを見せています。ぜひ図書館で知識を蓄えてから、まつりにおでかけになってはいかがでしょうか。

編集後記



編集初参加で、限られた紙面で楽しく、わかりやすく記事を書くのに苦労しました。楽しんでいただけたら嬉しいです。（M）  
羽生棋士が所沢出身だったことを、今回初めて知りました。脳トレに将棋を始めてみようかしら…。（S）

【クイズの答え】 <巻>③ <式>① <参>③

編集発行：所沢市立所沢図書館 〒359-0042 所沢市並木 1-13	
ホームページアドレス	パソコン <a href="https://lib.city.tokorozawa.saitama.jp">https://lib.city.tokorozawa.saitama.jp</a>
	携帯電話 <a href="https://lib.city.tokorozawa.saitama.jp/k">https://lib.city.tokorozawa.saitama.jp/k</a>
	スマートフォン <a href="https://lib.city.tokorozawa.saitama.jp/opw/OPS/OPSINDEX.CSP">https://lib.city.tokorozawa.saitama.jp/opw/OPS/OPSINDEX.CSP</a>
	電話 / FAX
本館	04-2995-6311 / 04-2992-1421
所沢分館	04-2923-1243 / 04-2928-8195
椿峰分館	04-2924-8041 / 04-2928-8148
狭山ヶ丘分館	04-2949-1193 / 04-2949-8577
松井小学校図書館	04-2992-2796 / 04-2992-2797
富岡分館	04-2943-3636 / 04-2943-6680
吾妻分館	04-2924-0249 / 04-2928-8250
柳瀬分館	04-2944-4023 / 04-2945-7236
新所沢分館	04-2929-1905 / 04-2929-1906